

ベテラン講師とフレッシュ講師の！

＜日商簿記 3 級＞

フリーテキスト講座

～商品売買～ 全 9 枚



Syachou

&

Morisato

弥生カレッジ GMC フリーテキスト講座 (無料動画で公開中)

「商品売買」…その前に…

仕訳のルール

- ①勘定科目を使用する！（※5つのグループ）
- ②増えたか減ったかで、貸借（左右）が決まる！
- ③貸借の金額が必ず一致！
- ④取り消す時には、反対側に！

※5つのグループ

貸借対照表

【資産】 (現金・土地 売掛金…)	【負債】 (借入金・買掛金)
	【純資産】 (資本金…)

損益計算書

【費用】 (仕入・通信費 消耗品費…)	【収益】 (売上・雑益 受取利息)
――	
利 益	

◆仕訳の確認

では、さっそく上記のルールで仕訳をしてみよう！

【例】4/20 四国商店(当社)は、岬銀行より500,000円を現金で借入れた。



現金 500,000 / 借入金 500,000

【資産】一般的に言われる財産や
後でお金を受取れる権利

【負債】あとで支払わなければならない義務

【例】7/20 四国商店(当社)は、岬銀行に500,000円を現金で返済した。(利息は考えないものとする)

借入金 500,000 / 現金 500,000

【負債】

【資産】

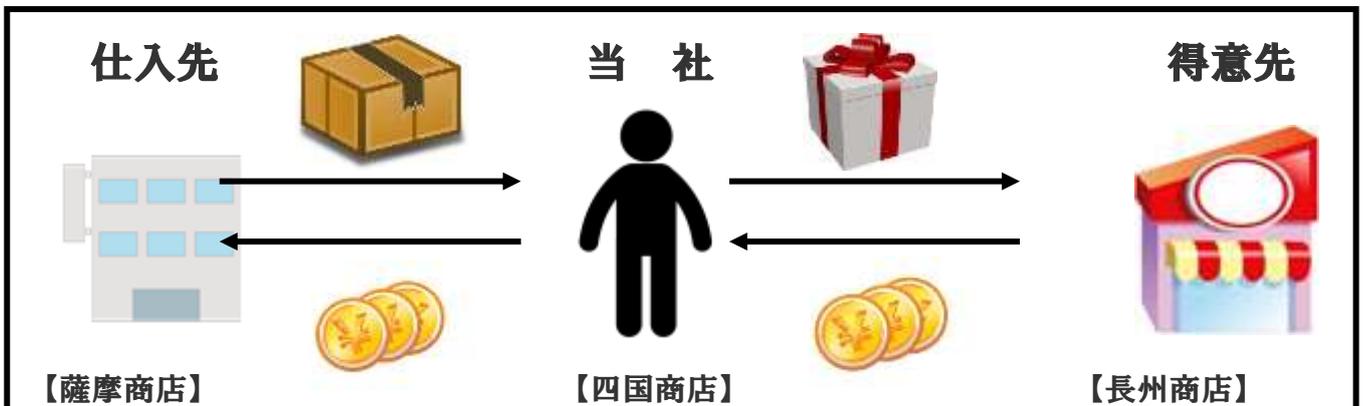
仕訳のルールは、最初は慣れないかもしれませんが、しかし、感覚としては交通ルールと同じようなものです。「赤信号は止まれ。青信号は進む。」のように…。(『ルールはルール』ということですね。)何がしたいのかというところからまず初めのうちは「なぜ？なんでそうなるの？」と理屈を考えるのではなく「そういうものなんだな。」と【ルール】としてまずは捉えてもらうことが、簿記学習のポイントです。守里は当時、最初から理屈を一つ一つ考えてしまい、なかなか学習が進まず苦しみました…。「経験者は語る」のエピソードです。

ベテラン講師とフレッシュ講師の！日商簿記3級フリー講座
～商品売買～

商品売買

商品売買の項目での考え方は、各自テキストを読んでからこちらで再度確認をしてください。

<このテキストでの登場人物と関係性>



1. 三分法と分記法

商品売買の処理方法には、**三分法**と**分記法**という2つの方法があります。

3級でよく出題されるのは、三分法です。問題に特に指示がなければ、三分法で処理を行いましょう。

しかし、分記法も出題範囲にはなるので、違いは忘れないように分記法も頭の片隅にとどめておきましょう。

◆三分法（仕入・売上・繰越商品）

【例】～仕入れたとき～

四国商店は、薩摩商店より商品 5,000 円を仕入れ、代金は現金で支払った。

仕入 5,000/ 現金 5,000

仕入れをただけなので、そのまま「仕入」という[費用]の科目で処理。

因みに、仕入れをした時の金額は仕入原価と言います。

【例】～売り上げたとき～

四国商店は、長州商店に商品(原価 5,000 円 売価 13,000 円)を売り上げ、代金は現金で受け取った。

現金 13,000/ 売上 13,000

商品を売り上げたのでそのまま「売上」という[収益]の科目を使う。

因みに、売り上げた時の金額は売価と言います。

そして、3つ目の「**繰越商品**」ですが、このあと最終的に仕入原価を元にして売上原価(売上げを上げるために貢献した金額)を計算する仕訳が必要にはなりません。こうした計算は、三分法では期末の「決算時」に行います。詳しくは、決算手続きのチャプターで説明しますので、ここでは説明を割愛しますね。

◆分記法（商品・商品売買益）

【例】

～仕入れたとき～

四国商店(当社)は、薩摩商店より商品 5,000 円を仕入れ、代金は現金で支払った。

商 品 5,000/ 現 金 5,000

仕入れた物は(商品としてお客さんに販売する目的の為)全て「商品」(資産)として処理をする。

～売り上げたとき～

四国商店(当社)は、長州商店に商品(原価 5,000 円 売価 13,000 円)を売り上げ、代金は現金で受け取った。

現 金 13,000 / 商 品 5,000
商品売買益 8,000

※ここで注意すべきは、**商 品**です。「商品」の金額は仕入原価です。

もう1度仕訳を見てください。

借方での「現金」は売価で、売り上げた時の金額を示しています。

そして、貸方の「商品」は仕入原価であり、商品を売り上げたことにより、店から商品 5,000 円(原価)分だけ、減少したとして記入します。

したがって、売価と原価の差額を「商品売買益」勘定で処理します。

売価－原価＝利益(儲け)ですね。



お分かりでしょうか？

このように、分記法では商品を販売した都度、その商品ごとの原価が分かっていると処理ができません。スーパーのような大量の商品を扱う会社では、販売の都度、その商品の原価をいちいち調べるとするのは非常に手間がかかり効率も良くない…ですよね。

2. 「掛け」での取引

続いて、掛け取引の項目を確認していきましょう！

◆買掛金

【例】買掛金(あとで代金を支払う義務)

～商品を掛けて仕入れたとき～

4/1 四国商店は、薩摩商店より商品 12,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。

仕 入 12,000/ 買掛金 12,000
[負債] あとで代金を支払う義務

～買掛金を支払ったとき～

4/30 四国商店は、薩摩商店に対する買掛金 12,000 円を現金で支払った。

買掛金 12,000/ 現 金 12,000

◆売掛金

【例】売掛金(あとで代金を受け取る権利)

～商品を掛けて売り上げたとき～

4/1 四国商店は、長州商店に商品(原価 12,000 円 売価 25,000 円)を売り上げ、代金は掛けとした。

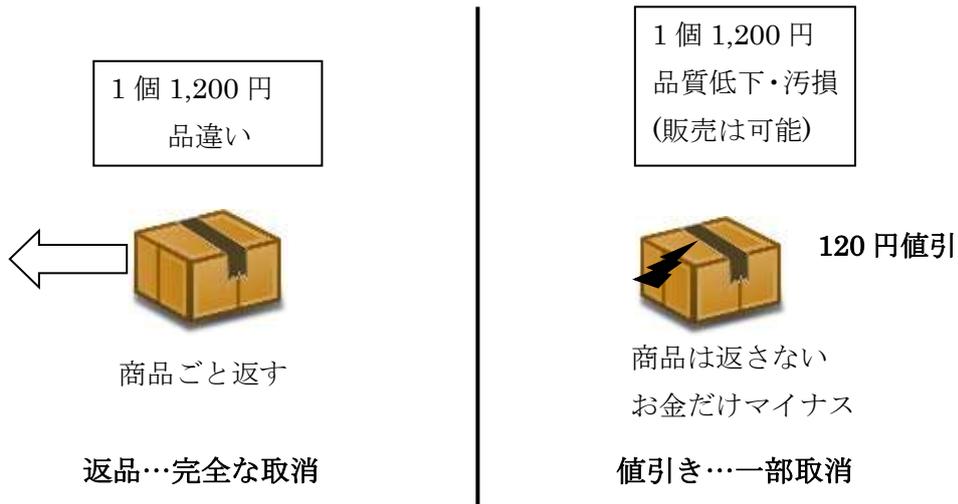
売掛金 25,000/ 売 上 25,000
[資産] あとで代金を受取れる権利

～売掛金を回収したとき～

4/30 四国商店は、長州商店より売掛金 25,000 円を現金で回収した。

現 金 25,000/ 売掛金 25,000

3. 返品と値引き



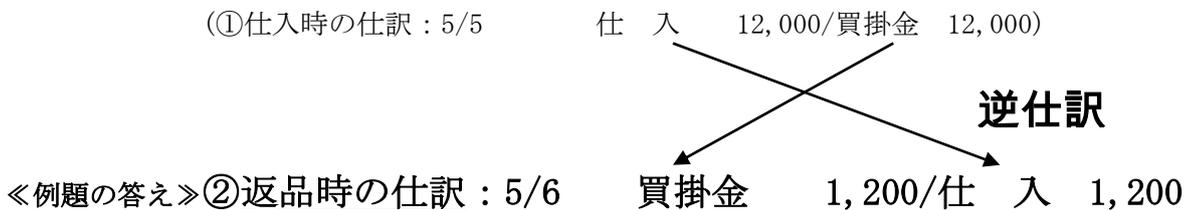
返品と値引きの違うところといえば、モノが動くか動かないか。ということですね。
返品と値引きの処理は仕訳の方法は同じです。

◆仕入戻し・仕入値引き

【例】仕入戻し・仕入値引き

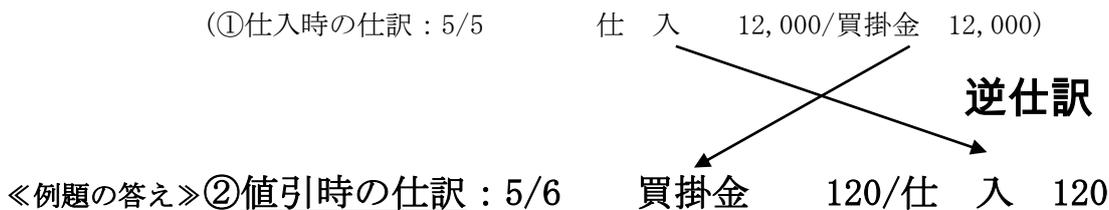
～仕入戻しをしたとき～

5/5 四国商店は、薩摩商店より商品 12,000 円を仕入れ、代金は掛けとしていたが、仕入れた商品のうち 1,200 円分が品違いだった為、5/6 に返品した。



～仕入値引きがあったとき～

5/5 四国商店は、薩摩商店より商品 12,000 円を仕入れ、代金は掛けとしていたが、仕入れた商品のうち 120 円分が汚れていた為、5/6 に値引きをしてもらった。



いかがでしょうか？

このように、返品・値引きがあったときは、返品・値引きがあったぶんだけ、「逆仕訳」(無かったことにする)をすればよいですね。

売上げた側も処理方法は全く同じですよ。

逆仕訳は、いきなり書くと勘定科目がどちらがどうだったか、こんがらがるので、「元の仕訳はどういう仕訳であったか？」
をまず書いてみると分かりやすいですよ！



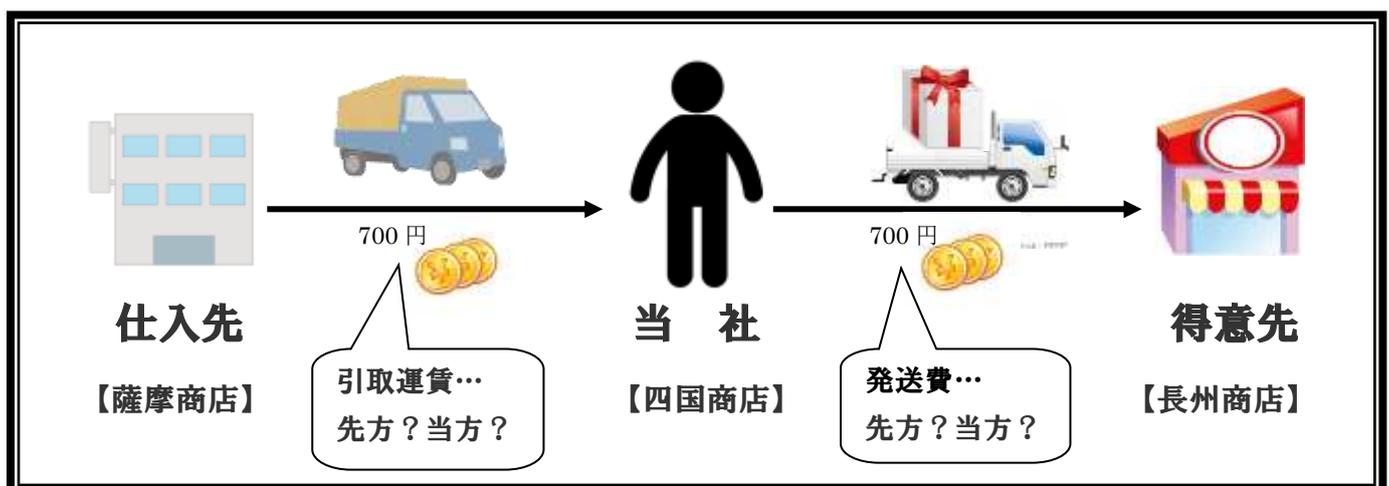
4. 諸掛り

…モノを売ったり買ったりして発送する時に、必要な経費のことです。

仕入れる時にかかる費用は**仕入諸掛り**といい、売り上げる時にかかる費用は**売上諸掛り**といいます。

なお、それぞれの諸掛りを当店が負担するか、先方が負担するかの違いで、仕訳の仕方も変わります。

イメージ図で表すとこのような感じです。



それでは、確認していきましょう。

【仕入諸掛り】

～当店負担(あなた)～

四国商店は、薩摩商店より商品 12,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。

なお、引取運賃 700 円(当店負担)は現金で支払った。

※仕入	12,700	／	買掛金	12,000
			現金	700

～先方負担(仕入先)～

四国商店は、薩摩商店より商品 12,000 円を仕入れ、代金は掛けとした。

なお、薩摩商店負担の引取運賃 700 円は現金で立替払いした。

仕入	12,000	／	買掛金	12,000
<u>立替金</u>	700		現金	700

[資産] あとで代金を受取れる権利



※仕入れ諸掛りは、仕入原価に含めて処理をするがポイント。

本試験の問題に、負担先の指定が無い場合は「当店負担」と考えて処理をしよう。

【売上諸掛り】

～当店負担(あなた)～

四国商店は、長州商店に商品(原価 12,000 円 売価 25,000 円)を売り上げ、代金は掛けとした。
なお、発送費 700 円(当店負担)は現金で支払った。

売掛金	25,000	／	売 上	25,000
<u>発送費</u>	700	／	現 金	700
[費用] 稼ぐための出費				

～先方負担(得意先) その①～

四国商店は、長州商店に商品(原価 12,000 円 売価 25,000 円)を売り上げ、代金は掛けとした。
なお、長州商店負担の引取運賃 700 円(先方負担)は現金で立替払いした。

売掛金	25,000	／	売 上	25,000
<u>立替金</u>	700	／	現 金	700

～先方負担(得意先) その②～

四国商店は、長州商店に商品(原価 12,000 円 売価 25,000 円)を売り上げ、代金は掛けとした。
なお、長州商店負担の発送費 700 円(先方負担)は立替払したので、発送費は売掛金に含めて処理をすることとした。

売掛金	25,700	／	売 上	25,000
		／	現 金	700

売掛金も立替金も [資産] のグループ。どちらも「あとでお金を受取る権利」で権利としては同じなので、まとめて処理してしまっても……いいんです！売掛金にまとめて処理をすることができます。

ネットショッピングなどである「送料込」のようなイメージですね。



仕入諸掛りと売上諸掛りのまとめ

諸 掛 り		処 理
仕入諸掛り	当店負担	仕入 [費用] に含める
	仕入先負担	立替金 [資産]
売上諸掛り	当店負担	発送費 [費用]
	得意先負担	立替金 [資産] または 売掛金 [資産] に含める

過去問チャレンジ！※直近の過去問のみ載せています。

返品・値引き…132回第1問-④

諸掛り… 138回第1問-④

136回第1問-③

134回第1問-②